

メッセージアウトライン ローマ 6 : 11~14 「義の器」

[11]「このように、あなたがたも、自分は罪に対しては死んだ者であり、神に対してはキリスト・イエスにあって生きた者だと、思いなさい。」

これはイエス・キリストを自分の救い主と信じる者の法的立場を示している。私たちがどのような人間であり、どのような生き方をしてきたかにかかわらず、イエス・キリストを信じる者は神の前に義と認められ、神の子とされる。それゆえ、義と認められた者は、それにふさわしく罪に死に、神に生きる者として歩まなければならない。

[12]「ですから、あなたがたの死ぬべきからだを罪の支配にゆだねて、その情欲に従ってはいけません。」

信仰者は原理的には罪に対して死に、神に対してはキリスト・イエスにあって生きている者であるが、現在のこの地上においては、罪との戦い、生まれながらの肉の欲望との戦いが続いていく。しかしイエス・キリストを信じる者はこの戦いに勝つことができる。信仰者は救い主であるイエス・キリストにより頼んでいくときに、古い自分、自我、肉欲、情欲との戦いに勝利することができる。肉の行いとその結果→ガラテヤ5:19~21。

御霊によって歩み、御霊の実を結ぶ生き方→ガラテヤ5:16,22~24。

イエス・キリストを救い主と信じた者は三位一体の助け主なる神である御霊(聖霊)がともにいてくださり、罪と戦い、勝利し、御霊の実を結び、神の栄光をあらわす生き方ができるようにしてくださるのである。→ヨハネ14:16~17, I コリント6:19~20

[13-14]「また、あなたがたの手足を不義の器として罪にささげてはいけません。むしろ、死者の中から生かされた者として、あなた方自身とその手足を義の器として神にささげなさい。というのは、罪はあなたがたを支配することがないからです。なぜなら、あなたがたは律法の下にはなく、恵みの下にあるからです。」

信仰者は自分の手足、身体を不義の器として罪にささげ、罪に支配されて生きるのではなく、むしろ死者の中から生かされた者として自分自身を義の器として神にささげなければならない。信仰者はもはや罪の奴隷ではなく、神の栄光をあらわすために生かされているのである。

罪との戦いは現実のものである。信仰者は罪に対しては死に、神に対してはキリスト・イエスにあって生きている者であり、神の恵みの下にある者であるが、なお日々の歩みにおいて罪との戦いがある。それゆえ信仰者はみことばの約束を堅く握り、御霊により頼みつつ、信仰の戦いを戦い抜き、自分を義の器として神にささげ、罪に勝利していく者とならなければならない。